

令和6年度 大阪府立交野高等学校 第一回学校運営協議会議事録

日 時：令和6年6月19日（水）15時30分～17時00分

場 所：本校会議室

出席者（敬称略）：吉田巖（委員長）、中田恵理子（副委員長）、白川安考（委員）、
森脇正子（委員）、中山尚美（委員）、國狹淳子（委員）
校長、教頭、首席、指導教諭（生徒指導主事）、教務主任

協 議 内 容：

第1議題 学校経営企画及び学校評価について

「学芸コースとは何か？」（森脇）

「新カリキュラムの影響で『学芸コース』は無くなった。また、『理数専門コース』も現在は無い。」（首席）

「学校評価アンケートにおいて、『授業が楽しくわかりやすい』を肯定した生徒の率が53%は低すぎるのではないか？この結果をどう受け入れる？」（中田）

「難しいことは言わず、楽しいだけの授業では学力がつかず、どうしても難しい内容に触れる必要性は出てくるので葛藤を日々抱えている。」（首席）

「アンケートの質問の文言が良くないのではないのか？そもそも何のためにアンケートをとっていて、誰が質問を考えているのか？」（中田）

「アンケートは教員の授業力向上、また教員の評価の素材として行っている。質問は府教育庁から降りてきたものを使用している。」（教頭）

「教員の評価のためにやるアンケートのままでは良くない。生徒のためのアンケートを取るのであれば、質問の文言は教員が自ら考えるべきだ。」（中田）

「検討する。ただ文言を大幅に変えると前年度との比較が困難になるので慎重に。」（教頭）

→アンケートの結果は保護者が子どもを入学させたいと思うかどうかにかかわらず、学校評価アンケートの数値は高くしておくべき。「授業が楽しくわかりやすい」という文言の変更を検討する。

「私立に進学する生徒の割合が増えている中、公立に進む生徒数は減っている。各校の特色を出していくことは難しいが、交野市内外での交野高校進学率はどれくらい？」（中山）

「昔は交野市内の生徒が90%超えであったが、現在その割合は2割程度（新入生のうち約60人）となっている。この割合は2013年からあまり変化はない。」（首席）

→吹奏楽部の演奏などを通し、近隣の小中学校との関わりを増やし、交野高校をアピールしていきたい（中山）

「アンケート結果は他の公立高校と比べてどうなっている？質問は全校同じ？」（國狹）

「アンケート結果を他の公立高校と比べたりはしない。また、質問内容に関しては全設問が全く同じというわけではない。また、結果のまとめ方も学校によって違う。」（校長）

「食堂は相変わらず無いまま？今後も何もしないのか？定員割れの原因の一つではないか？」（國狹）

「売店の設置や弁当販売等は過去にも計画し、今年も計画中ではあるが売り上げの見込みが厳しい。本校の生徒は昼食に弁当を家から持ってくる生徒が多く（コンビニ等で買わず）、また自販機で軽食の販売もしているので、それを利用している生徒をよく見かける。食堂に関しては検討中。」（校長）

→食堂設置に関しては要検討。

第2 議題 交野高校に期待すること

「やはり定員割れをしたことが一番の課題であり、今年は割らないようにするためにどうすべきかを考えてほしい。」（吉田）

「交野高校の生徒が将来を見据えて生きていくようにさせるためには、どのようにするのかをよく考えてほしい。それと、制服の切り替え時期を決めて強要させることをなぜ今の時代にも行っているのか？最近では気候変動も激しく、体温調整が大事なはずでは？」（森脇）

「気温の変動が激しい季節の変わり目において、しっかりと移行期間を設けている。その期間に関しても、その年の気候の状態によって変更を加えている。また、服装を自由にさせると、式の時などしっかりした服装で居る必要があるときに揃えることが困難になる。」（生徒指導主事）

「高校は生徒たちにとって次のステップのための中間ポイントであり、将来の自己形成のためにある。大学に進学することだけが正しいわけではない。（森脇）

→「指導を厳しくすることを望んでいる保護者も存在しているので、指導を緩めることはしたくない。委員の皆様の意見も取り入れながら、『生徒を育てること』を第一に考えて学校運営に取り組んでいきたい」（校長）